

下妻市地域クラブ の事故防止・安全 マニュアル

指導者が安心して活動を運営するための基本指針



下妻スタイル

わたしらしく暮らせるまち

令和 7 年 12 月

下妻市教育委員会

1. 目的

本マニュアルは、下妻市における中学生を対象とした地域クラブ活動（スポーツ活動及び文化芸術活動）において、参加生徒が安心して活動に参加できる環境を整備し、事故やトラブルを未然に防止することを目的とする。

また、万一事故や緊急事態が発生した場合においても、指導者及び関係者が迅速かつ適切な対応を行うことができる体制を構築し、被害の拡大防止と再発防止を図るものである。

2. 基本方針

2.1 対象

- ・地域クラブ活動の指導者
- ・運営責任者及び運営事務局スタッフ
- ・参加する中学生
- ・保護者
- ・関係する教育・関係団体職員等

2.2 方針

1. 生徒の生命・身体の安全を最優先とすること。
2. 事故やトラブルは事前に防ぐという予防原則を徹底すること。
3. 異変や危険を感じた場合は、ためらうことなく活動を中止・変更すること。
4. 情報共有と記録を徹底し、組織的な安全管理体制を構築すること。
5. 事故発生時は隠さず、速やかに事務局へ報告(別紙様式2にて)し、再発防止策を講じること。

3. 活動前の安全管理

3.1 環境の確認

- ・活動場所（体育館、公園、グラウンドなど）の危険箇所を事前に点検する。
- ・天候や気温、路面状況などを確認し、必要に応じて活動内容を変更または中止する。
- ・使用する器具・設備の破損や不具合を確認する。

※非常口やAEDの設置場所を必ず確認しておくこと。

3.2 参加者の健康状態確認

- ・活動前に体調不良者がいないか確認する。発熱、頭痛、腹痛、倦怠感、食欲不振等が見られる場合は、参加を見合わせる。
- ・持病やアレルギーのある参加者については事前に把握しておきます。
- ・水分補給や休憩時間を適切に確保する。

4. 活動中の安全管理

4.1 指導者の役割

指導者は、生徒の安全確保の最前線に立つ者として、以下の責務を負う。

- ・常に安全配慮義務を意識し、危険要因を予測した指導を行うこと。
- ・活動開始前及び終了時に、必ず出席の確認と健康観察を行うこと。
- ・生徒の体調や心理状態の変化を把握し、異常があれば速やかに対応すること。
- ・生徒の年齢や発達段階、技量に応じた指導を行うこと。
- ・指導中に生徒のみで判断・行動させる場面を極力作らないこと。
- ・施設管理者の指示及び利用規則を遵守すること。
- ・施設の開錠及び施錠を行うこと。

～施設の開錠・施錠手順～

- 活動開始前に、スマートロック対応のキーボックスを確認する。
- 管理者から発行されたワンタイムパスコードを入力し、キーボックスを開ける。
- 内部の物理カギを取り出し、施設を開錠する。
- 活動終了後、全員の退館を確認したうえで施錠を行う。
- カギをキーボックスに戻し、確実にロックをかける。
- 使用後は、管理者へ施錠完了を報告する。

※注意事項

- ・ワンタイムパスコードはセキュリティ上、他者と共有しないこと。
- ・万一、スマートロックやキーボックスに不具合が生じた場合は、速やかに管理者へ連絡する。
- ・指導者は活動に必要のない学校備品や生徒の持物等に触れない。又触れさせないように指導すること。

4.2 活動中の安全対策

(1) 指導上の留意事項

- ・無理な練習量や過度な競争を強いない。
- ・体調不良を申し出やすい雰囲気をつくる。
- ・活動中は常に生徒全体の様子を見渡す。
- ・危険な行為はその場で注意・指導する。

※軽傷の場合：応急処置を行い、必要に応じて保護者へ連絡する。

※重傷・意識障害の場合：速やかに 119 番通報し、救急隊到着まで適切な対応を行う。

※事故発生時は、他の指導者やスタッフと連携して安全確保を最優先とする。

(2) 熱中症対策

- ・WBGT 等の数値を参考に活動の実施可否を判断する。
- ・20~30 分ごとに休憩と水分補給を行う。
- ・高温・高湿時は活動の中止または短縮を検討する。
- ・異常を感じた場合は、直ちに涼しい場所へ移動し、応急対応を行う。

(3) 文化芸術活動の安全対策

- ・器具・工具は指導者が管理する。
- ・刃物・薬品等は使用前後に必ず点検を行う。
- ・換気を徹底する。
- ・長時間作業の場合は、姿勢や視力への配慮を行う。

5. 活動後の対応

- ・活動終了後、参加者の体調やけがの有無を確認する。
- ・活動終了後、生徒の送迎等の確認を行い、安全に帰宅できるよう配慮する。
- ・使用した器具・設備を点検し、破損や異常があれば報告・修理を行う。
- ・事故やヒヤリハット事例があった場合は、速やかに記録し、事務局へ報告(別紙様式 2 にて)し、再発防止策を検討する。

6. 保護者・地域との連携

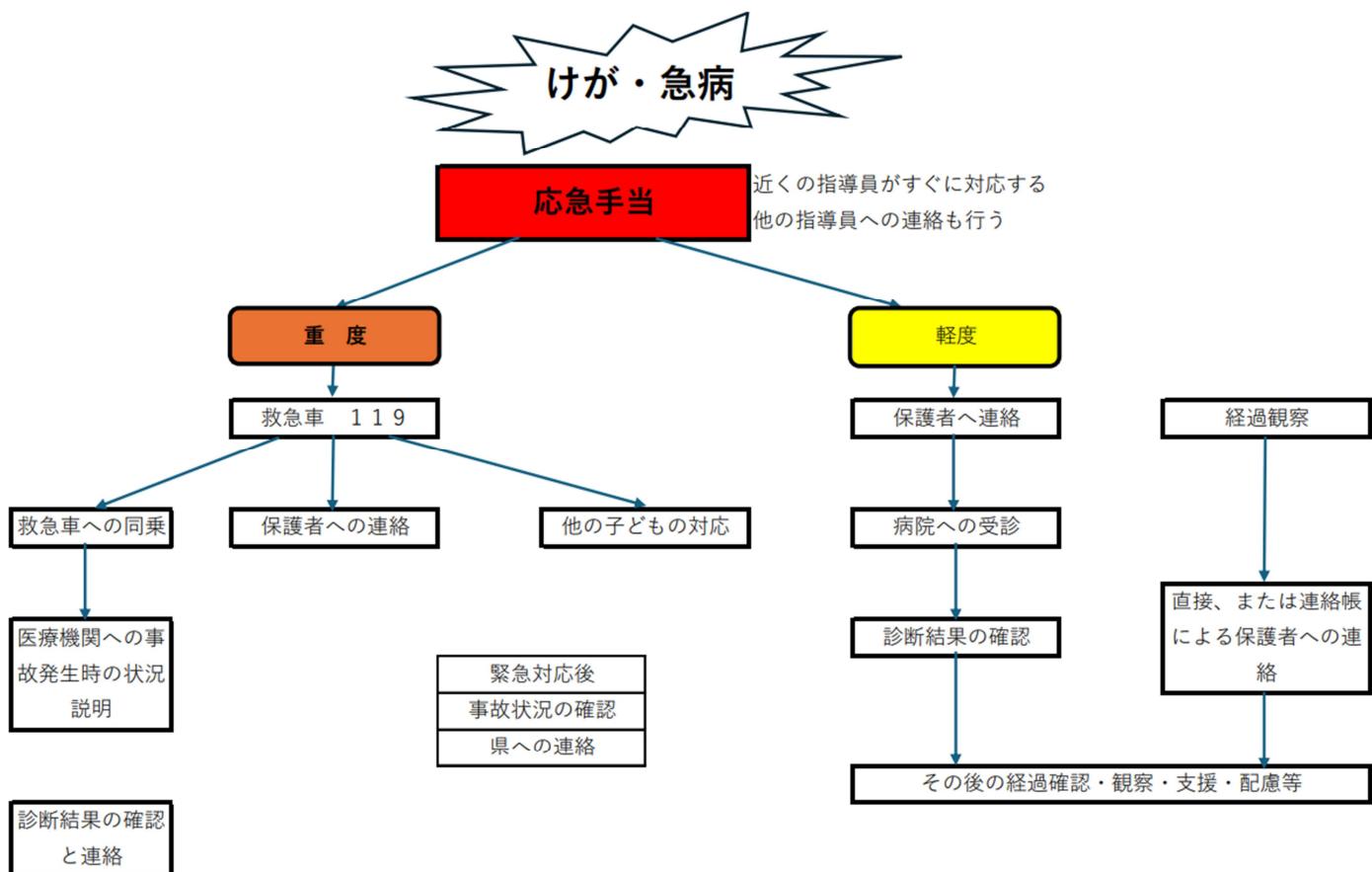
- ・活動内容や安全対策について、保護者へ定期的に説明する。
- ・地域住民や関係機関と協力し、安全な活動環境を整備する。
- ・緊急時の連絡体制（電話・メール・連絡アプリ BAND 等）を明確にする。

- ・ケガや天候不良時等、自力で帰宅が困難な場合など、保護者への引渡しも慎重に行う。

7. 事故・緊急時の報告手順

1. 応急処置・安全確保
 - ・活動を中止する。
 - ・負傷者を安全な場所へ移動する。
2. 救急要請（必要に応じて）
 - ・必要に応じて救急要請を行う。
3. 保護者・関係者への連絡
 - ・管理責任者に速やかに報告する。
 - ・保護者に事実を正確に伝える。
 - ・必要に応じ警察・消防・医療機関と連携する。
4. 事故報告書の作成
 - ・事故報告書を作成する。
5. 再発防止策の検討・共有
 - ・内容を関係者で共有する。
 - ・再発防止策を検討し改善する。

～ケガ発生時の対応フローチャート～



※配慮事項

緊急時には 1 分の違いが状況を左右する。

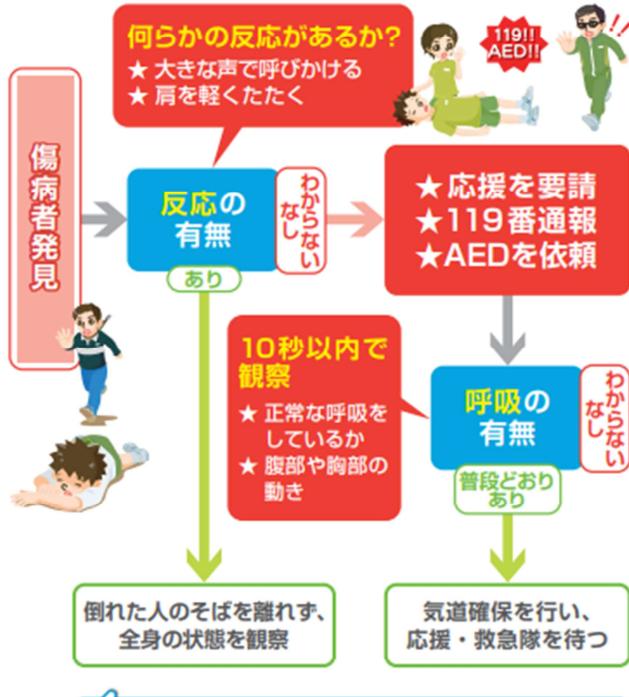
落ち着いて正確に状況を伝えることが大切です。

もしもの時の他の人への伝え方を確認しておきましょう。

いつ・どこで・だれが・どうした・今どうなっているといったことを落ち着いて把握できるようにしましょう。

~心停止への対応フローチャート~

心停止の救命処置



直ちに胸骨圧迫を開始

※水の事故(溺水)では、気道確保と人工呼吸を優先する

- 強く (成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3)
- 速く (少なくとも100~120回/分)
- 絶え間なく (中断を最少にする)

★人工呼吸ができる場合

- 胸骨圧迫:人工呼吸=30:2

★人工呼吸ができない、(感染の心配等で)ためらわれる場合

- 胸骨圧迫のみ

直ちに心肺蘇生を開始

AED装着



心電図解析

電気ショックの必要

電気ショック1回

ショック後直ちに胸骨圧迫から再開

直ちに胸骨圧迫から再開

心停止ではない人に、胸骨圧迫を行ったりAEDを使用したりしても大きな問題は起こらない

- 救急隊に引き継ぐまで
 - 傷病者に普段どおりの呼吸や目的のある仕草がある
- 続ける認められるまで

~熱中症への対応フローチャート~

出典：独立行政法人日本スポーツ振興センター、令和2年度スポーツ庁委託事業 学校における体育活動での事故防止対策推進事業「スポーツ事故対応ハンドブック（フローチャート編）」（令和2年12月）

熱中症への対応

熱中症を疑う症状

- ★めまい・失神
- ★四肢の筋や腹筋がつり、筋肉痛が起こる。
- ★全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛等が起こる。
- ★足がもつれる。ふらつく。転倒する。突然座り込む。立ち上がりれない。等

熱中症を疑う症状

意識障害の有無

質問をして応答を見る

- ここはどこ？
- 名前は？
- 今何をしている？

- ★応答が鈍い。
- ★言動がおかしい。
- ★意識がない。
- ★ペットボトルの蓋を開けることができない。等

涼しい室内への避難



水分摂取ができるか

できる

できない

水分塩分を補給する

- スポーツドリンクあるいは経口補水液等を補給する。
- 熱けいれんの場合は食塩を含んだ飲み物や生理食塩水(0.9%)を補給する。

症状改善の有無

改善しない

改善

経過観察

(当日のスポーツ)
参加はしない。

身体冷却

救急車到着までの間、積極的に体を冷やす。

効果的な冷却方法

- ①氷水・冷水で首から下をつける。
- ②ホースで水をかけ続ける。
- ③ぬれタオルを体にあて扇風機で冷やす。

※迅速に体温を下げることができれば、救命率が上がります!!

病院へ!



119番通報

すぐに救急車を要請し、同時に体を冷やす等の応急手当を行う。

8. 感染症対策

- ・手洗い、消毒を励行する。
- ・体調不良時は参加を見合わせる。
- ・施設内の換気を徹底する。

9. ハラスメント防止

- ・体罰、暴言、差別的発言を一切禁止する。
- ・威圧的な言動を行わない。
- ・相談体制を明確にする。
- ・問題発生時は速やかに対応する。

10. 個人情報保護

- ・名簿や個人情報の管理を徹底する。
- ・第三者へ提供しない。
- ・SNS 等への無断投稿を禁止する。

11. 保険対応

- ・原則として保険に加入する。(下妻市地域クラブはスポーツ安全保険に行政で加入手続きを行っている。)
- ・事故が発生した場合の手続きを周知する。以下の手順で手続きを行う。
 - ①地域クラブ指導者より、ケガの発生報告を事務局(教育委員会)に連絡する。
 - ②ケガをした生徒の保護者より事務局に問い合わせをする。
 - ③スポーツ安全保険へログインして保護者が保険適応申請と手続きを行う。

12. ヒヤリハット報告の重要性

- ・重大事故を防ぐためには、未然の「ヒヤリ」「ハッ」とした事例を共有することが重要である。
- ・小さな出来事でも記録・報告し、全体で改善策を検討する。

13. 事務局より年間安全研修の実施

- ・事務局は、指導者を対象に、年1回以上の安全研修を実施を行う。
- ・事務局は、応急手当・AED 使用法・熱中症対策などの実技研修を含めた研修を実施する。
- ・事務局は新任指導者に対して、必ず安全マニュアルの内容を周知する。

14. まとめ

地域クラブ活動は、子どもたちや地域住民の健全な成長と交流を支える大切な場です。そのためには、指導者一人ひとりが安全意識を高く持ち、日々の活動の中で事故防止に努めることが不可欠です。本マニュアルを活用し、安全で安心な地域クラブ運営を推進しましょう。

【報告・問い合わせ 事務局】

下妻市教育委員会 所在地：下妻市本城町3丁目13番地
学校支援課 連絡先：0296-44-0746

【様式1】指導者確認チェックリスト

確認項目	チェック
活動前に生徒の体調確認を行った	<input type="checkbox"/>
活動場所・設備の安全確認を行った	<input type="checkbox"/>
緊急連絡先を把握している	<input type="checkbox"/>
事故時対応手順を理解している	<input type="checkbox"/>
ハラスメント防止方針を理解している	<input type="checkbox"/>
無理のない指導内容である	<input type="checkbox"/>
保護者との連絡体制が整っている	<input type="checkbox"/>

確認者名：

確認日：令和 年 月 日

————— キリトリ —————

【様式2】事故報告書

発生日時：令和 年 月 日 時 分発生

クラブ名：

場所：

指導者名：

負傷者名：

事故内容：

応急処置内容：

通報・連絡先及び対応状況：

再発防止策：

確認者名：

確認日：令和 年 月 日